

II-1 遂行機能障害の新しい評価法

—BADS (Behavioral Assessment of Dysexecutive Syndrome) の有効性について—

○田淵 肇¹⁾ 森山 泰²⁾ 加藤元一郎³⁾ 三村 將³⁾
 鹿島 晴雄⁴⁾ 山本 正博⁵⁾

The Behavioral Assessment of the Dysexecutive Syndrome (遂行機能の行動評価法: 以下BADS) は遂行機能障害による日常生活上の問題を評価できるよう、英国の B. Wilson ら (1996) によって作成された検査バッテリーである。遂行機能障害を持つ患者は衝動的で、混乱しやすく、自分の行動の修正に問題があり、社会生活上不適當な振舞いをするものがしばしばあるが、個々の遂行機能は正常なこともあるため、その評価は容易ではない。これまでにいくつかの神経心理学的検査、前頭葉機能検査が開発されているが、それらは個々の遂行機能をみるものであり、検査時間は一般的に短く、課題の開始については験者が主導権を持ち、課題の目標もはっきり設定されている。BADS はそのような点を改変して、前頭葉症状を包括的に捉え、その中心的症状となる遂行機能障害の定量的評価を目的としている。BADS は以下に紹介する6種類の下位検査と1つの質問表からなり、各下位検査は課題の達成度、所要時間などで0~4点に評価され、全体の評価は計24点満点で行われる。

【BADS の各下位検査について】

1. Rule Shift Cards Test (規則変換カード検査)

この検査はトランプを使用し、ある規則から他の規則に変換したり、新しい規則を記憶にとどめ

る能力を測定する。

2. Action Program Test (行為組立検査)

この検査は自分が取べき行動を計画し、新しい問題を解決する能力を調べるもので、紙と鉛筆でなく、水や針金、コルク、ピーカーなど実際の物品を使うことが特徴となっている。

3. Key Search Test (鍵探し検査)

この検査では、なくした鍵を探し出すための効率的な道筋を計画する能力が評価される。ものをなくすことは、特に脳損傷のある患者では日常生活上しばしば認められる出来事であり、日常生活に即した検査であるという特徴も持っている。

4. Temporal Judgement Test (時間判断検査)

この検査は、時間の長さを答える4つの質問からなる。質問の正しい答えは明確には存在せず、被験者が常識的な推論ができるかどうかを要求される。

5. Zoo Map Test (動物園地図検査)

この検査では、示された地図上において、一定の規則に従って道筋を計画する能力、また一度規則が破られた場合に、その情報をフィードバックし、行動を修正し、その後のミスを最小限にする能力を調べる。

6. Modified Six Elements Test (修正6要素検査)

この検査では、示された規則に従い、制限時間内に6つの課題に取り組むために、被験者が行動を計画し、系統だて、調整する能力が評価される。

7. The Dysexecutive Questionnaire (遂行機能障害に関する質問表)

1) 東京青梅病院精神神経科
 2) 駒木野病院精神神経科
 3) 東京歯科大学市川総合病院精神神経科
 4) 慶應義塾大学医学部精神神経科
 5) 横浜市老人リハビリテーション友愛病院

これは、遂行機能障害の問題の範囲を判断するために作成された20の質問からなる質問表で、障害による変化を「感情、人格の変化」「動機付けの変化」「行動の変化」「認知の変化」の4つに分けて質問している。被験者と、被験者をよく知っている人に答えてもらうように、若干言い回しを変えた2種類の質問紙が用意されている。

【症例】

我々が実際にBADSを施行した症例について報告する。被験者は平成8年9月に頭部CT上5センチ程度の左前頭葉皮質下出血を起こした68歳の女性。現在は麻痺もなく、失語、失認、失行なども認められていない。WAIS-Rの総IQ

は90で、記憶等にも目立った障害はない。現在単身にて生活しながら、リハビリ病院に通院している。各種神経心理検査、及びBADSの結果は表1、2に示した。

【まとめ】

BADSは患者の日常生活を妨げる遂行機能の欠損の有無を明らかにし、その障害がどのようなものかを判断したり、その障害を定量的に評価するのに役立つと思われる。また、行為を組み立て、計画する際の微妙な困難さを評価できるので、リハビリテーションにおいても有用であろう。さらにBADSを、分裂病患者の遂行機能の評価に利用することも可能かもしれない。

表1 症例の神経心理検査、前頭葉機能検査の結果

WAIS-R	VIQ=84, PIQ=98, IQ=90
WMS-R	Attention=94, Verbal=77, Visual=120, Delayed=99, General=92
ROCFT	Copy=35, Delayed=25
WCST	CA1=0, PEN1=4, DMS1=4
Stroop	Part1=19sec, Error=2 Part3=23sec, Error=2
Word Fluency	Initial=14, Category=30

注 WAIS-R : Wechsler Adult Intelligence Scale - Revised
 WMS-R : Wechsler Memory Scale - Revised
 ROCFT : Rey-Osterrieth Complex Figure Test
 WCST : Wisconsin Card Sorting Test (Keio Version)
 Stroop : Modified Stroop Test

表2 BADSの結果

Rule Shift Cards Test (規則変換カード検査)	0/4点
Action Program Test (行為組立検査)	3/4点
Key Search Test (鍵探し検査)	1/4点
Temporal Judgement Test (時間判断検査)	0/4点
Zoo Map Test (動物園地図検査)	1/4点
Modified Six Elements Test (修正6要素検査)	1/4点
Total	6/24点